

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名 中央区
学校名 大阪市立玉造小学校
学校長名 森石 泰生

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立玉造小学校では、第6学年 104名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語の平均正答率は71%で全国平均を4.2ポイント上回った。算数の平均正答率は67%で全国平均を9ポイント上回った。理科の平均正答率は61%で全国平均を3.9ポイント上回った。正答率の中央値は全国は、国語が全国が10問に対して本校は11問、算数は全国が10問に対して本校は11問、理科は全国が10問に対して本校が11問という結果であった。また、平均無答率についても国語、算数、理科のすべてにおいて、全国平均よりも2ポイント以上低く、本校児童の確かな力と粘り強く問題に取り組む姿勢が見て取れる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】 平均正答率では全国平均を上回っているが、「情報の扱いに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」に課題が見られた。
【算数】 すべての領域で全国平均を上回った。特に「変化と関係」の領域については、全国が57.5%に対し、本校は70.6%と、13.1ポイント上回った。
【理科】 すべての領域で全国平均を上回った。特に「エネルギー」の領域については、全国が46.7%に対し、本校は52.2%と、5.5ポイント上回った。
各教科における「知識・技能」の観点では、国語が2.7ポイント、算数が7.5ポイント、理科で4ポイント全国を上回り、「思考・判断・表現」においては、国語8ポイント、算数10ポイント、理科3.5ポイント全国を上回った。すべての学級において基礎基本の定着を進め、個別最適な学びの場の設定するとともに授業改善を推進した成果であると考えられる。

質問調査より

「学校に行くことは楽しい」と思える児童の割合(85.4%)が昨年度より2.4ポイント増加し、「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがありますか」に肯定的な回答をした割合(90.3%)も昨年度より2.8ポイント増加した。一方で、「自分と違う意見についてい考えることを楽しい」(75.7%)が昨年度より4.7ポイント、「友達関係に満足している」(89.7%)と昨年より1.4ポイントそれぞれ減少しした。この微妙な変化からも、児童が安全で安心できる学校づくりを一層進めるためには、一人ひとりのアセスメントを丁寧に行なうことが大切である。
また、平日1日当たりの学習時間が3時間以上の児童は全体の29.1%で、全国平均と比べて非常に高い割合である。一方で「全くしない」と答えた児童が4.9%いることから、全体的な学力向上を図るためにも、更なる学習習慣の確立と学習の個別最適化をすすめる必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

児童の学力を支える基本的生活習慣・学習習慣の一層の確立を目指し、児童一人ひとりの課題を保護者と共有し、学校・家庭が手を取り合って児童を育てる教育環境を構築していく。学校においては、研究教科である国語科を中心に授業改善を推進する。また、ICT機器活用に一層取り組み、一人ひとりの「できる」「わかる」「楽しい」学びを基盤とした学力向上に努める。このように、これまで通り基礎・基本の定着と個別最適な学びを模索し、児童の生きる力を育んでいく。

教員の働き方改革についても、継続して取り組んでいく。教員が子どもと向き合う時間や指導力向上を探究する時間を捻出し、教員・子ども双方が学び続けられる学校づくりを推進していく。

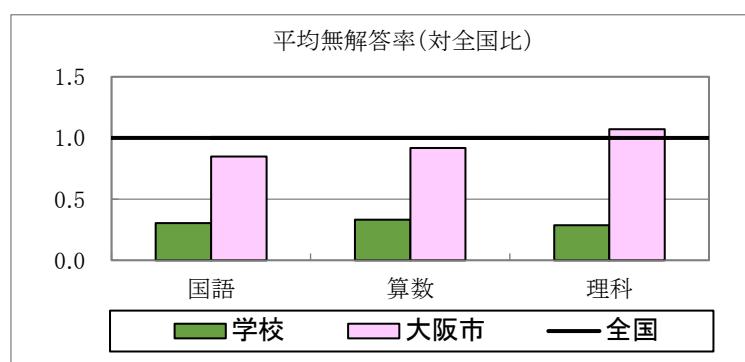
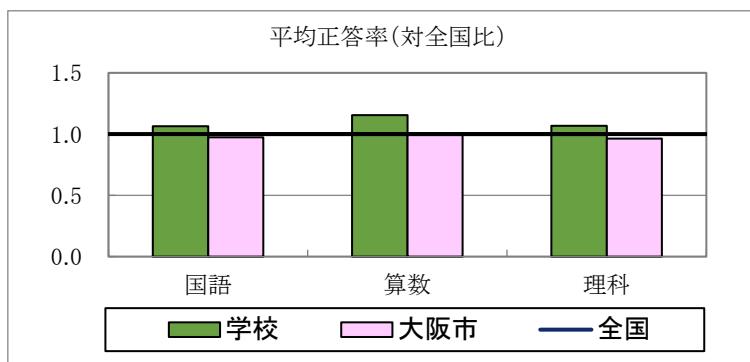
【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	71	67	61
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	1.0	1.2	0.8
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

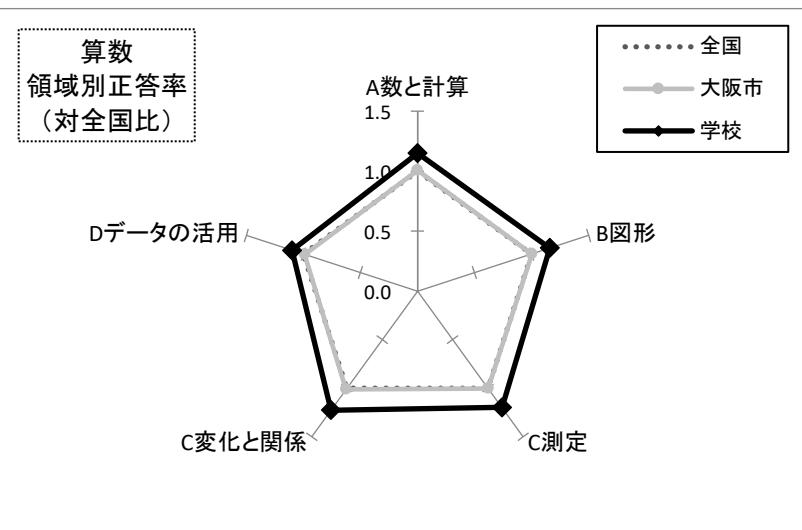
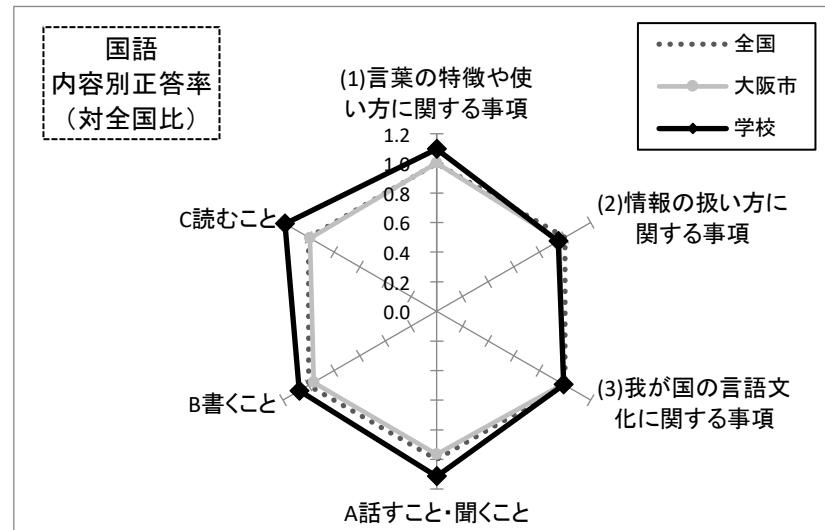
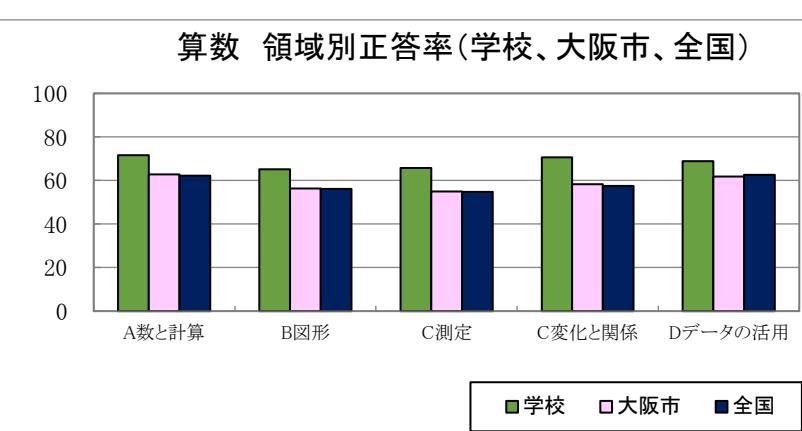
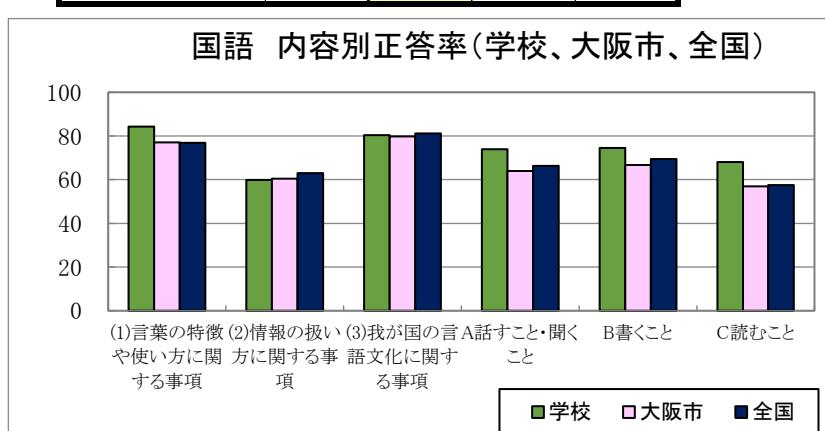


【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	84.3	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	59.8	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	80.4	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	73.9	64.0	66.3
B 書くこと	3	74.5	66.7	69.5
C 読むこと	4	68.1	56.9	57.5

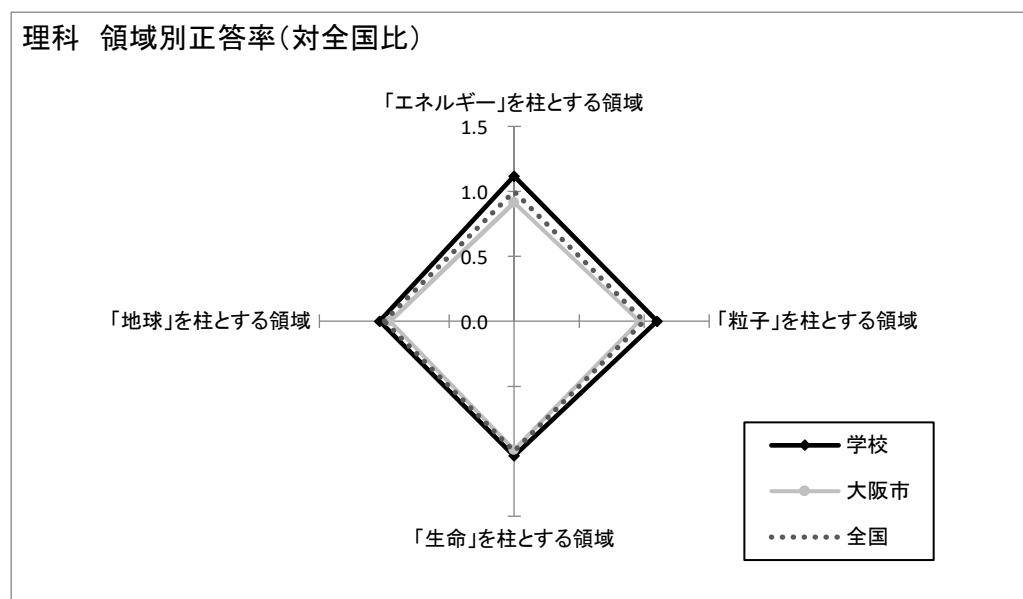
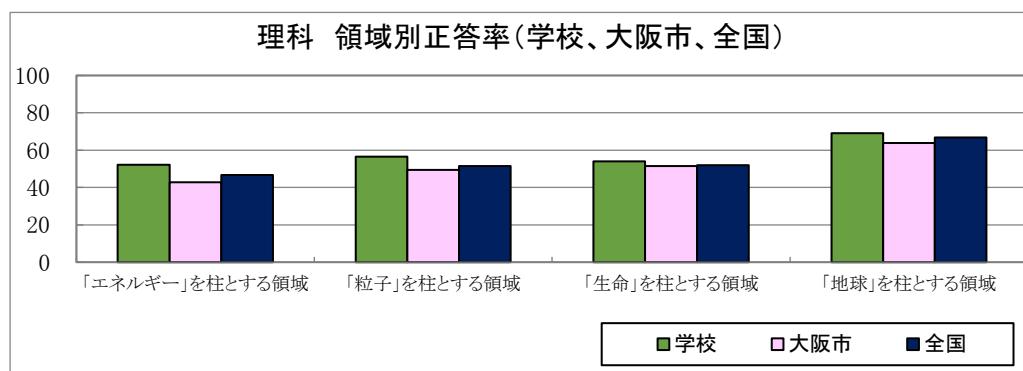
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	71.6	62.7	62.3
B 図形	4	65.2	56.4	56.2
C 測定	2	65.7	54.9	54.8
C 変化と関係	3	70.6	58.2	57.5
D データの活用	5	68.8	61.9	62.6



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 分 区	「エネルギー」を 柱とする領域	4	52.2	42.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	56.5	49.5
B 分 区	「生命」を 柱とする領域	4	53.9	51.4
	「地球」を 柱とする領域	6	69.1	63.8



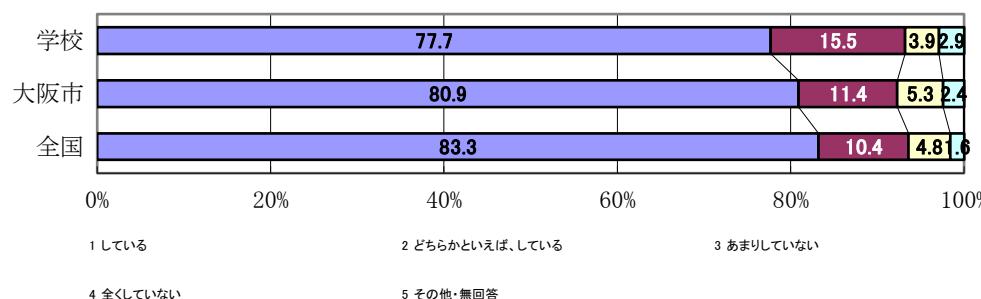
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

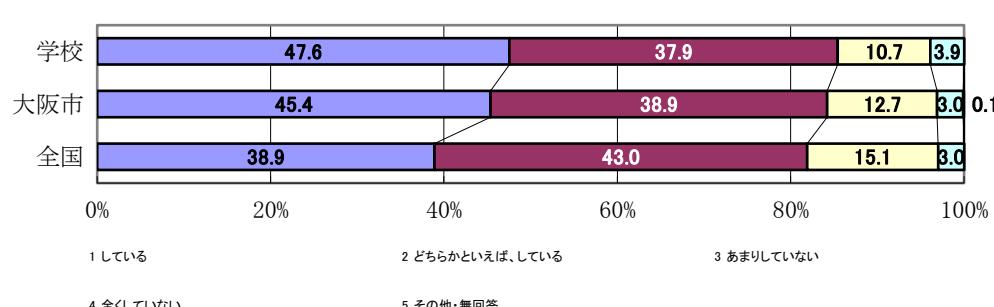
1

朝食を毎日食べていますか



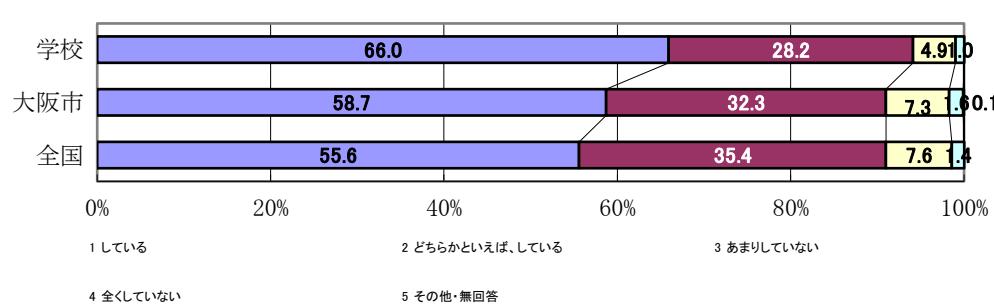
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



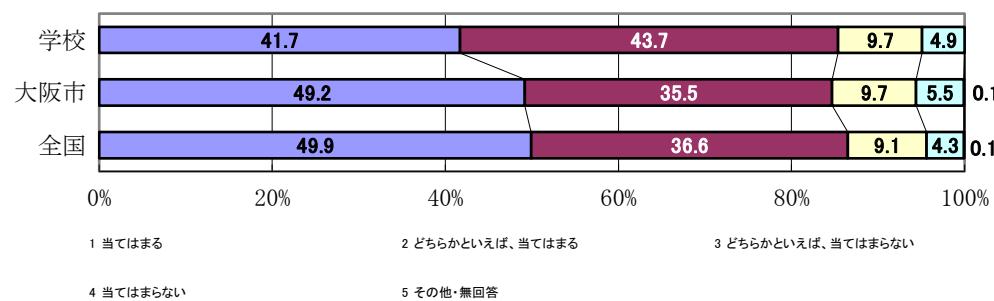
3

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



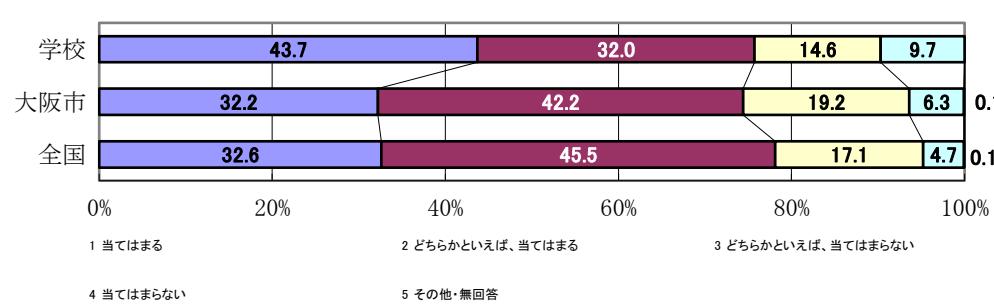
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



13

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



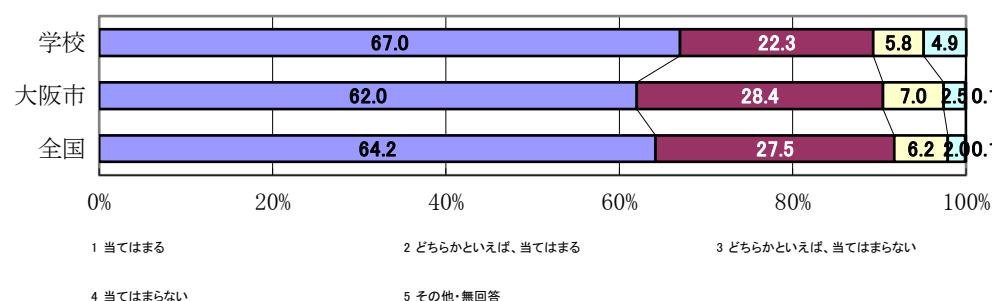
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

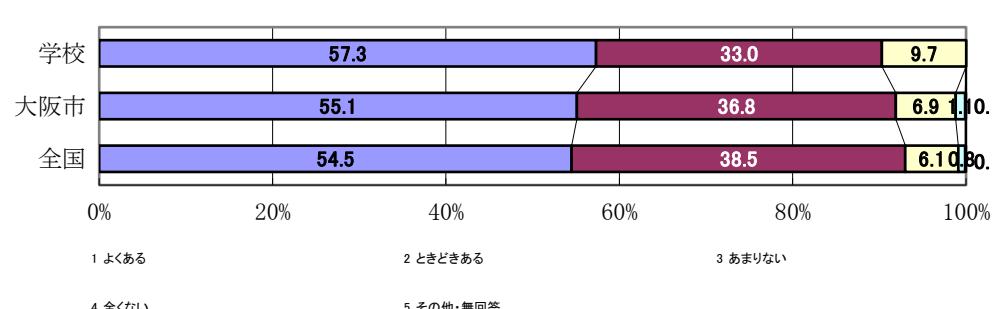
14

友達関係に満足していますか



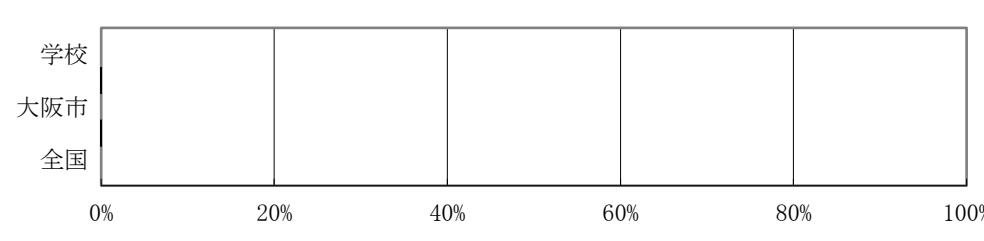
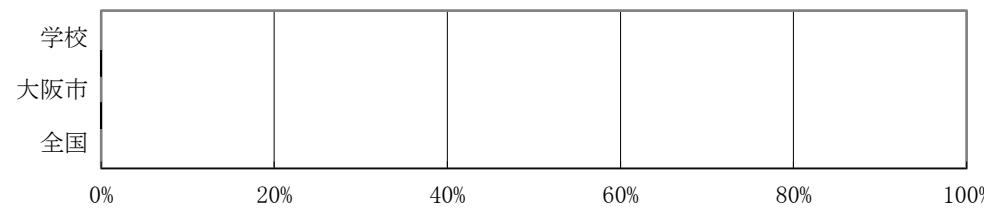
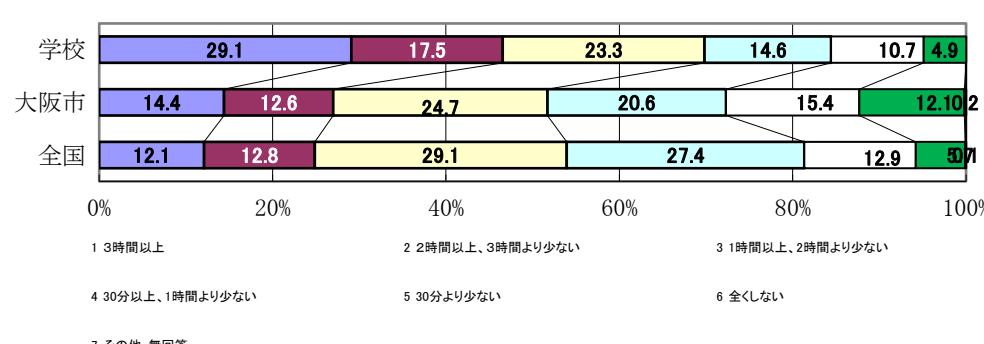
15

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



学校質問より

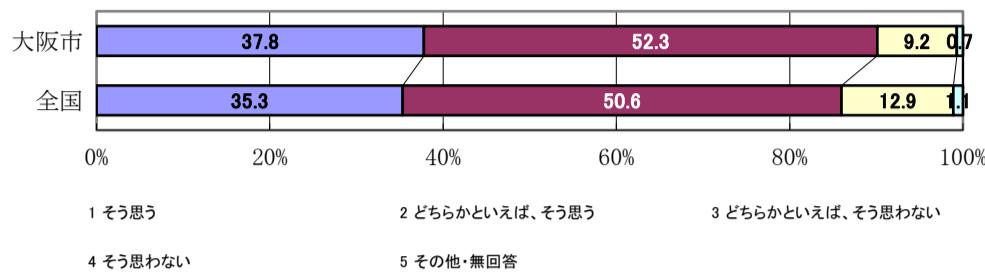
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

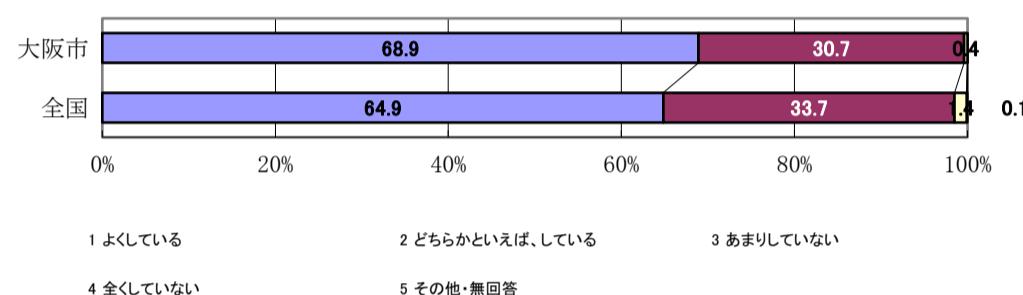
学校 「そう思う」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

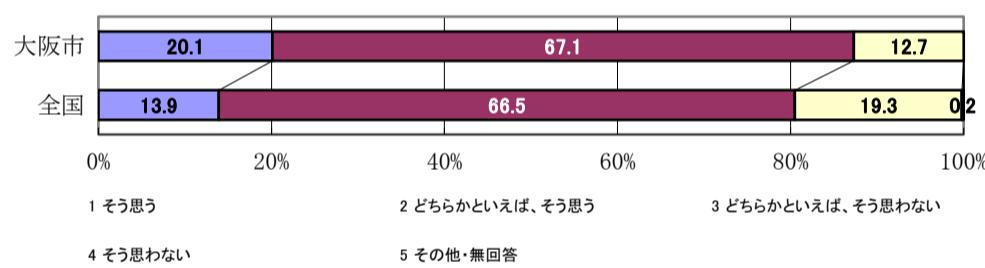
学校 「よくしている」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

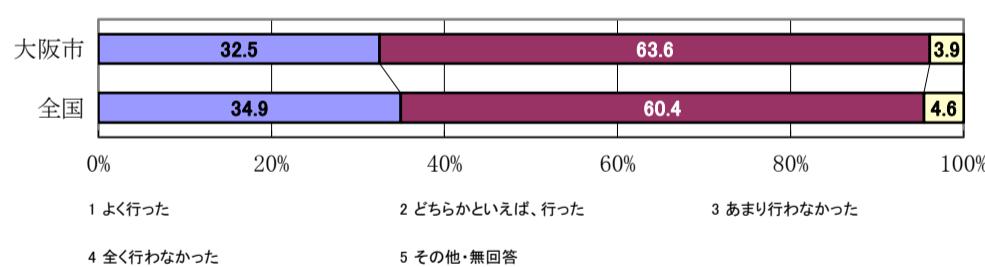
学校 「そう思う」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

学校 「よく行った」を選択



学校 「」を選択

